

# 第87回 KTSM 実技セミナー in 宮崎⑦

KTBCの理解&基礎コース

## 開催報告

### ●開催概要 KTSM 実技セミナー 基本コース

「KTバランスチャートを用いた包括的食支援技術」

姿勢調整・スクリーニング評価・食事介助など

経口摂取を早期に開始し、さらに継続するための支援には、安全に評価し、経口摂取開始する食事介助技術が必要であり、まずは医療従事者の基礎知識・スキルのアップが重要となる。

これまでは、一日セミナーを行うことで、スキルアップだけでなく、包括的支援のための評価ツールとしての展開方法を知ることができた。複数回の受講歴のある医療従事者の比率も高いが、初めての受講者については、摂食嚥下リハそのものの経験が少なかったり、全く経験ない方が参加されたりするのも、宮崎セミナーの特徴である。

今回のセミナーで、ベッドサイドスクリーニング評価、食事介助の基本的事項について学び、そのスキルを習得してもらうことで、嚥下障害者の良好な機能を活かすことができる評価スキル、より安全にセルフケア能力を高めることを意図とした食事介助のスキルアップを図るとともに、包括的支援のための評価ツールとしてのKTBCでの展開方法を知り、活用していくことで、より多くの嚥下障害者に関わっていける人材の育成を図ることを目的とする。また、超高齢化社会となり、専門職だけでは到底対応できなくなることが予想荒れる。市民とともに、「口から食べる」を普及したく、本セミナーを受講した者にはついでに認定証を発行し、広く活動してもらえるようにしていくものとする。

会期：平成31年7月20日(土) 9:30～17:00

会場：宮崎県立看護大学

受講者：34名(内、学生2名)

主催：口腔リハビリテーション研究会

共催：NPO法人 口から食べる幸せを守る会

協賛：株式会社 クリニコ宮崎

株式会社 大塚製薬工場



### ●プログラム概要

1. 市民公開講座  
「あなたも食事サポーターになって“食べたい”を支えよう」 【講義】
2. 口から食べることをサポートするための包括的食支援スキルの理解と展開  
KT バランスチャートの理解と展開方法 (評価・アセスメント・アプローチ) 【講義】
3. 早期経口摂取開始に向けたベッドサイドスクリーニング評価 【演習】
4. 参加者のニーズ、レディネスに沿っての食事介助技術 【演習】
  - ・ベッド上での食事介助
  - ・シーティング
  - ・車椅子上での食事介助 (セルフケア拡大)
5. 全体まとめ および 質疑応答  
認定証交付

## ●担当講師およびアドバイザー

敬称略

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美 (神奈川)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 JA 神奈川県厚生連伊勢原共同病院	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長 看護師 (日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士) KTSM 実技認定者
山下 裕史 (熊本)	熊本リハビリテーション病院	言語聴覚士 (日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士) (認定言語聴覚士 (摂食・嚥下障害領域)) KTSM 実技認定者
清山 美恵 (宮崎)	口腔リハビリテーション研究会 みえ eat デンタルクリニック	口腔リハビリテーション研究会 代表 歯科医師 (日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士) KTSM 実技認定者
下川 圭佑 (宮崎)	医療法人 十善会 けんなん病院	看護師

## ●アドバイザーアシスタント

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
川崎 由香 (宮崎)	医療法人 十善会 けんなん病院	医師

宮崎開催2回目からずっと、宮崎県立看護大学を会場として使わせていただきました。同大学の中角助教には企画、準備の段階から色々とお世話になりました。

KTSM 理事長 小山先生には講師だけでなく、実技演習ではアドバイザーとしてグループを担当していただき、山下先生はわざわざ熊本からお出でいただきました。他アドバイザー2名に加え、サポーターとして右の8名の方々も前日準備からお手伝いくださいました。

今回で5年、7回目の実施とは言え、この方々の手際よいお手伝いがなければ、こんなにスムーズにセミナー当日を迎えられなかったと思います。

また、今回は、現役の高校生、宮崎南高校2年生、高山菜々子さん、宮永美央さんが市民講座を受けられた後、実技セミナーのサポーターとして、お手伝い下さいました。

色々な方々に支えていただいたお陰で、市民講座、実技セミナーを終えられたと、心から感謝するばかりです。

本当にありがとうございました。

小山先生、山下先生、アドバイザー、アシスタント、サポーターの皆さんと一緒に♪

## サポーター 一覧

	氏名	所属
1	中角吉信	宮崎県立看護大 助教
2	金子美和	口腔リハビリテーション研究会 世話人 (株)未来図 L a b o デイサービス未来図
3	坂田裕子	老健 ひむか苑
4	山田翔太	医療法人春光会 東病院
5	児玉美樹	みえ eat デンタルクリニック
6	川島由紀子	みえ eat デンタルクリニック
7	安部真人	特別養護老人ホーム 島津之荘
8	甲斐あゆみ	(株)未来図 L a b o デイサービス未来図



●受講者（申込者 34 名について）

今回の実技セミナーには、医療関係者 32 名、学生 2 名が参加されました。

受講者を以下の項目ごとに図示します

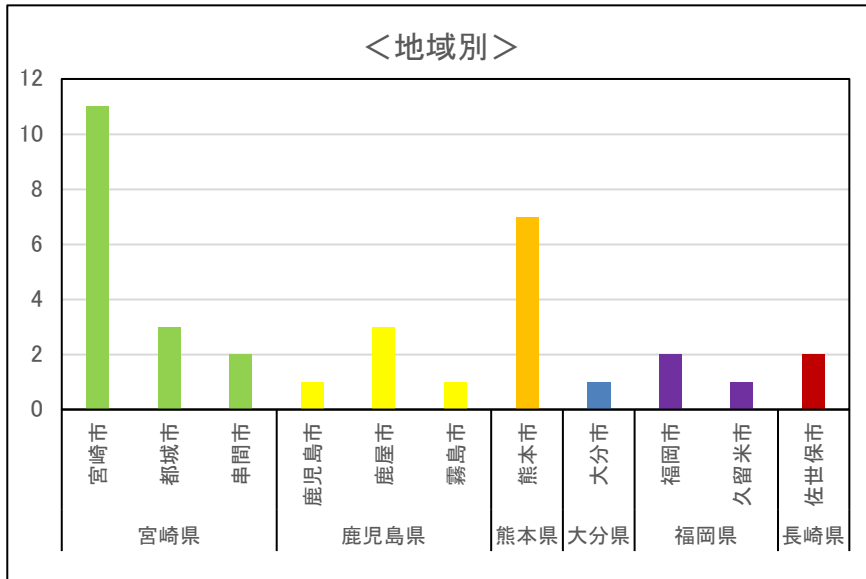


図 2 受講者の性別

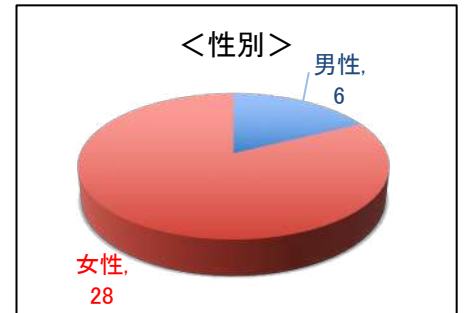


図 1 地域別受講者数[人]

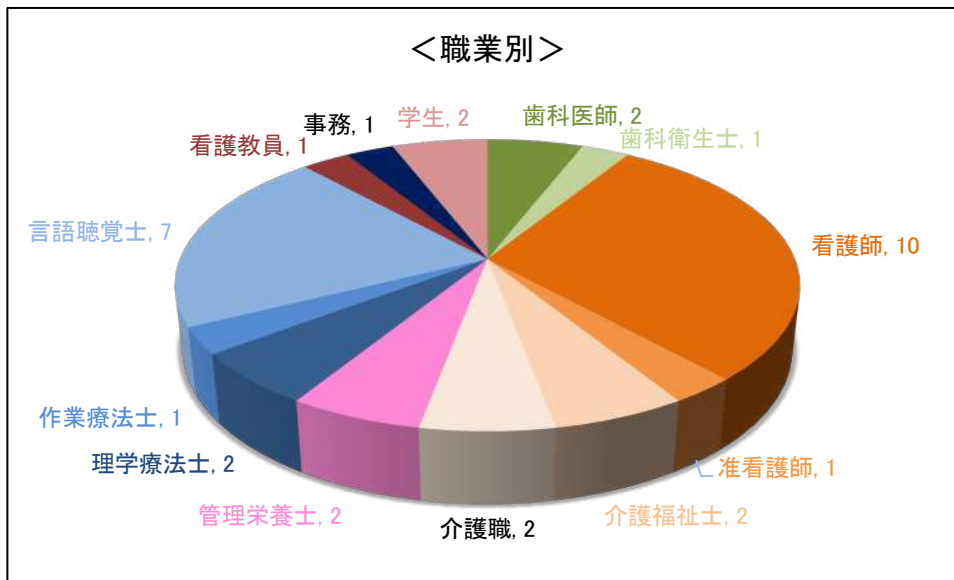


図 3 職業別受講者数[人]

今回は、医療者に加え、看護学生さん、言語聴覚士科の学生さんが受講して下さいました。学生さんの参加は初めてです！！

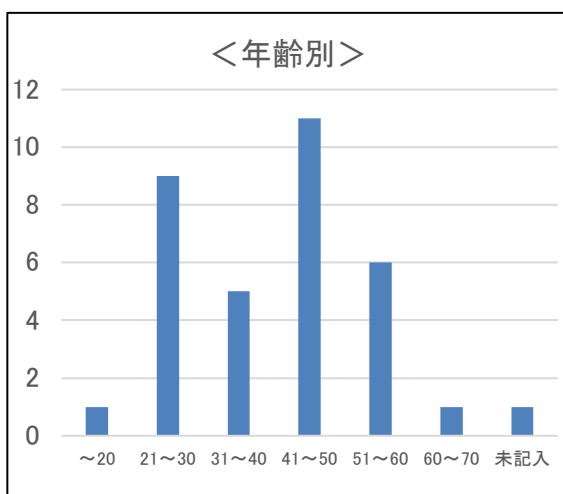


図 5 職種別受講者数 [人]

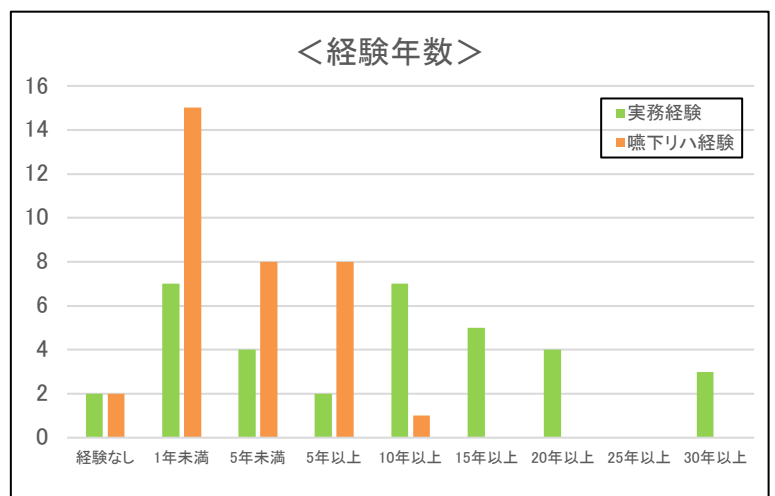


図 6 受講者の職種および摂食嚥下リハビリテーションの経験年数 [年]

受講者は、その殆どが実働の年齢層であるようである。摂食嚥下リハの経験年数は短い方が多い。職種の実務幅はほぼ均一であることから、現場では摂食嚥下リハが求められ、その経験年数に関わらず、全体的に広くそのスキルを身に付けたいと思われる。



## ★研修会風景

### ★講義

- 講義①(午前中の講義は市民講座を必修としました)



小山珠美先生



市民講座受講風景

体験学習も行いました



市民講座については、  
「第1回食事サポーター養成講座「あなたも食事サポーターになって“食べたい”を支えよう」」  
に、別途報告させていただきました。



小山珠美先生の他に、アドバイザー3名が付きました。  
熊本からおいでいただいたST山下裕史先生(左)、宮崎からは、清山美恵(右から2番目)と看護師の下川さん(左から2番目)がアドバイザーとしてグループ担当しました。

司会は、当研究会の金子美和(右)が担当しました。

### ★活動報告

ST山下裕史先生、日南市の春光会東病院の管理栄養士山田翔太さん、当研究会代表の清山美恵の3名で行いました。



ST山下先生は、所属の病院内での嚥下チームでの患者さん評価システムを作られたこと、実際にKTバランスチャート用いて、その採用前後での経口摂取への移行が早くなっているという発表をして下さいました。それは素晴らしい内容でしたが、多くの苦労も経験され、とても刺激を受ける発表でした！



山田さんは、病院内での活動、事例報告がありました。病院が新設されたことで、今後より一層活発に動いてくださることが期待できました。

今後は、事例について、KTバランスチャートを用いて、その効果を検証してくださることを期待したいと思います。

最後に、当研究会代表として、今回7回目となる実技セミナーを開催できた経緯、5年の活動を報告させていただきました。

今後の目標についても、お話しさせていただきました。

これからの課題を、しっかりこなしていきたいこと、また、ST山下先生のような「効果検証」をするべく、人材育成とともに取り組み方を再検討したいと思います。



初めての取り組みで、手際も悪かったのですが、いい刺激を受けられたと思います。しっかり、今後に生かしていきます。

## ●講義②

口から食べることをサポートするための包括的食支援スキルの理解と展開  
KT バランスチャートの理解と展開方法（評価・アセスメント・アプローチ）



小山珠美先生による講義を受けました。午前中の市民講座で、講義とハンズオンを行いましたので、この講義も理解しやすい様子でした。

皆さん、小山先生の声とスライドに釘付けでした。

KT バランスチャートについて、事前に学びたいという声も多く聞かれていましたので、その活用法とその便利さに、うなづきも多く見られました。

## ★実技演習

いよいよ実技へ！！



演習開始直前には、その後方では、食材準備班が、実技演習開始の備え、準備万端の状況ができていました。



## ●早期経口摂取開始に向けたベッドサイドスクリーニング評価



1, 2G (小山珠美先生担当)



3G (下川圭佑さん担当)



4G (清山担当)



5, 6G (山下裕史先生担当)

自己紹介に始まり、いよいよ各グループでの実技演習が始まりました。  
各グループ、1ベッドに会し、受講者が患者役と介助者役で、その手技を学びました。

## \*ポジショニング

足から上げて、上体を上げます



上肢を安定させ、脚元のしっかりさせます。足底が着いて安定すること、そのための保持環境は、バスタオル等、周りにあるもので整えます。ベッドのギャッジアップは、足からです！決して頭から起こさないように！！





ベッドを起こしていきますが、ベッドの角度も大事ですが、首（頭部）の角度が重要です！

視線が上を向いてしまわないように首の角度を上げますが、その方法のひとつです！



ポジショニングができれば、慣れるまでは、遠くに立って、左右のバランスや、体勢が安定しているかを見るとわかりやすくいいかと思います。足底を面で接触させるために、タオルを使って整えます。掛け布団を使うのも有効です！「圧抜き」も必ず行って下さい。患者さんの身体が、面で接するようにします。

＊スクリーニング検査（フードテスト、改訂水飲みテスト）

リクライニング角度：30度

- ・水飲みテスト：1cc, 2cc, 3cc の冷水を使用  
頸部聴診をしながら実施した。
- ・フードテスト：エンゲリード使用  
スプーンはKT スプーンを使用した



まずは、首の角度、オーバーテーブルの位置も重要です！  
食材がしっかり見えるようにして下さい。

患者さんに見える位置に！



衣服が汚れないように、タオルで胸元を覆います。  
襟元までしっかり隠しますが、喉の動きが見えるように置くことが重要！

↑喉の部分が見えるようにするのは、「ごっくん」を確認するためで、ここのスクリーニング検査でも重要ですが、食事介助をする際にも、「ごっくん」の確認はポイントになります！！

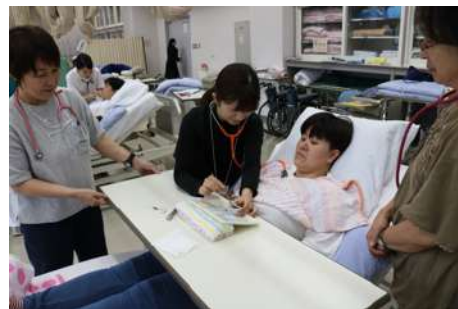




見せて。見せて、視線を誘導しま  
これ、重要です！  
スプーン操作も学びました。



エンゲリードを取るときも、患者さん  
にしっかり見せます。  
す。



頸部聴診しながらの水飲みテストとフ  
ードテストでしたが、聴診器を使用し  
ながらの評価はなかなか慣れず、ぎこ  
ちなくなった受講者も多かったよう  
です。安静時の呼吸音、液体の嚥下音や  
固形物の咀嚼・嚥下音なども、普段に  
聴いて慣れておくことをお勧めしま  
す。

●参加者のニーズ，受患者のレディネスに沿っての食事介助技術  
＊全介助(リクライニング角度 45 度へ)

付着性の低いお茶ゼリーから，そして



付着性の高いゼリーを食べても  
らいました。食材をしっかり「見せる」，患者さん自身が，患者さんの手でスプーンを持ち，患者さ  
んの手で運ぶことを再現した介助法で食べてもらいます。  
この時，スプーン操作に気を取られがちですが，患者さんの視線がしっかり食材を見ていることが重  
要です。  
手添えして，スプーン操作を学んでもらいました。  
スプーン操作は確かに難しいかもしれません。



反対側から鏡操作で，習得してもらいました。



サポーターとして手伝いに入ってくれた  
宮崎南高校生達も，急きよ，食事介  
助の体験をさせて下さいました！！





口唇閉鎖ができない患者さん，開口できない患者さんへのアシスト方法を学びました。



非利き手からの介助，しかも，困難場面のアシストは非常に難しかったことでしょう！  
しかし，こういう場面に多く遭遇します！  
スキル，Get です！！

＊一部介助(リクライニング角度 60 度へ)

抗重力位であるため，咀嚼食を使用．全粥とコンビニのポテトサラダも使いました。



肘の位置とテーブルの高さの関係が重要。



一部介助では，患者さんの手で，患者さん自身が食べているように保持するだけ。  
“介助者が食べさせている”スプーン操作は絶対にダメ。



患者さんの指と介助者の指の位置，関節口腔内への挿入位置に気をつける（嚥下食との違いを知る！）



スプーン介助の際には，関節を抑えないことが重要。



困難場面の対応の復習。  
口唇閉鎖の復習です。

そして，ベッド上の演習から，車椅子へ。

＊車椅子での食事介助(セルフケア拡大)

座面，背面にタオルを使って，シーティングを行います。







足底が地面に着いていない時には、マットなどを用い、安定を図ること、ここでもスプーン操作を学びました。



肘を安定させて食べてもらうことが重要。  
肘の位置とテーブルの高さの関係！

オーバーテーブルがない時や高さなどの調整が困難な時には、emテーブルなどのカッティングテーブルを使用することで、食事しやすい環境を整えることができます。  
テーブルとの段差にタオルなどを引いて、手に刺激がかかりにくくすることも大切です。

♪ 困難事例 ♪



多動な患者さんへの対応



環境を整えることに加え、無理なく、優しく抑えてあげることも有効。  
こういう困難事例の対応の仕方をもっと学びたいです！！

こんなシーンもありました！！



受講者は、アドバイザーももちろんですが、必死に取り組むので、講義の時以上に、演習の時には緊張が張り詰めます。  
しかし、その真面目な中にも、素敵な笑顔で癒されました。  
何とステキな笑顔でしょう♪  
楽しく学習できていらっしやる！と羨ましくなりました。  
私（清山）も余裕を持って、楽しく有意義な指導ができるようにしなきゃいかん！と思いました。



●各グループの受講者の皆さん



2G(アドバイザー: 小山珠美先生)



3G(アドバイザー: 下川圭佑)



4G(アドバイザー: 清山美恵)



5G(アドバイザー: 山下裕史先生)



6G(アドバイザー: 山下裕史先生)



1G(アドバイザー: 小山珠美先生)

★まとめ



実技演習が終わり、  
まとめの講義へ。



演習の後だからこそ、この講義はより  
深く聴くことができました。  
さらに頑張ろうと思えました！



## ● 『認定食事サポーター』 認定証の授与

今回の実技セミナーも、前々回の第81回実技セミナーに引き続き、「認定食事サポーター」の認定対象セミナーでした。

認定証に加え、認定食事サポーターバッジも配布されました。

単なる配布でなく、受講者みな、小山珠美先生からの手渡しを待っていました！！

そこで、小山先生手渡ししてもらいました❤️

皆、満面の笑みで受け取っていました。



受講者の皆さん、この認定証を持って色々なところで活躍してもらいたいのですが、この動きが普及するまでは、その場の提供をしていくことも、今回のセミナーを主催した当研究会の使命だと思っています。

近い将来、計画していきます。

## ★協賛企業

### (株) クリニコ宮崎

今回、急なお願いにも関わらず、(株)クリニコ宮崎さんが今回の実技セミナーに協賛下さいました。

御担当くださった、國部さん、ありがとうございました！

市民講座に参加された方々を含め、色々な食材などを試したり、特徴を教えていただいたり、とても良かった！と好評でした。

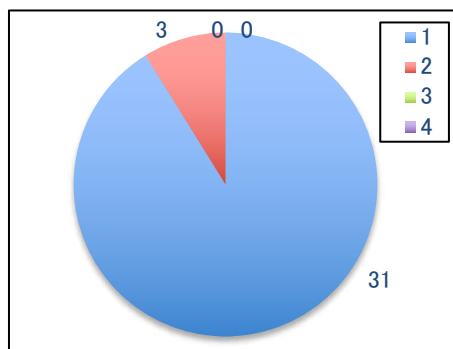
ありがとうございました。



## ●研修を終えて

受講者にアンケートを実施しました。(アンケート回答者：セミナー受講者34名、記述内容をそのまま記載しました)

1. 本日のセミナーは、口から食べる技術に関して、ご自身のスキルアップにつながりましたか？



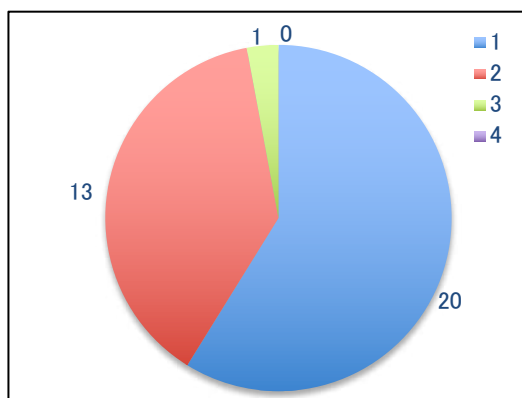
1)かなりそう思う 2)まあまあそう思う 3) ふつう 4) 思わない

2. セミナーの内容で特に印象に残った点は何ですか？

- ・小山先生の講義（食事サポーターを増やしたいという先生の熱意、エビデンスをもとにした実践の方法）
- ・口から食べることの重要性
- ・肺炎の絶飲食に根拠がないということ。禁食ではなくやるべきことをやる
- ・ポジショニングの重要性
- ・スクリーニングテスト
- ・すべてですが、特に定年な介助で食べる力が変わるところに感動しました
- ・相手に合わせた介助をする

- ・顎が上がると軌道が大きくなり食道が狭くなってしまいう等の姿勢調整の大切さ
- ・食事介助技術
- ・口腔内に食物をため込んでしまう人の介助方法
- ・認知症患者の食事介助方法
- ・貯めこみのある人のスプーンテクニック
- ・舌が丸まって送りこみができずスプーンを置くに入れづらい方の食事介助
- ・一部介助の時の介助者の腕の位置
- ・脳神経に基づいた食事介助方法
- ・脳のメカニズムについて改めて考えさせられました。また、実技で参加者同士意見を出し合えてよかった
- ・胃瘻だった患者さんが経口摂取になって体重が 10kg 増加したという実例
- ・食事介助を行う際にはまずポジショニングや圧を抜いたりして前準備がとても大切で時間を短縮せず姿勢を整えることがとても重要であることが印象に残りました
- ・開口しない方の脱感作を教えていただいた
- ・受講して自分の技術力・観察力が不足を学びもっと勉強したいと思いました
- ・食べないことを患者さんのせいにはしないこと
- ・実技演習をすることで利用者の気持ちもわかり介護技術に繋がった
- ・演習（ポジショニングの大切さ、食事介助のスキル、清山先生のご丁寧なご指導）
- ・実技を通して患者様の目線と同じ姿勢を経験できて食べやすい姿勢や方法を学びました
- ・普段していたことが先行期に対してのアプローチが甘さを気づきました
- ・食事介助を行う際に患者さんが自分の手で食べるように意識したつもりが、スプーンの口への入れ方が上からになっていたり、強く握りすぎて固くなってしまったりとなかなか難しいなと改めて感じ学んだ点です
- ・患者さんの様子（ベッド上、車椅子上）をよく観察する
- ・自分の介助方法に誤りがあったと認識できたこと
- ・その人に手になってあげる適切なスプーン角度
- ・一部介助の時に患者様の手に自分の手を添えるという点
- ・先行期が食事にとってとても大事である点
- ・実際に自分で体験しながら行ったのでわかりやすかったです
- ・スプーン操作はやはり慣れが必要だと思った
- ・学校での授業を結びつくことも多くもっと勉強せねばと痛感しました
- ・食事介助は実際に行うと難しかった看護職が少なかったこと

### 3. 本日の受講において、受講希望当初の目的は達成できましたか？



1)かなりそう思う 2)まあまあそう思う 3) ふつう 4) 思わない

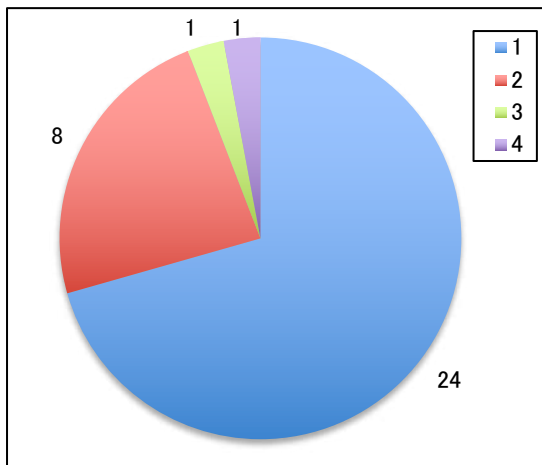
#### そう思われる理由を教えてください

- ・ポジショニングや食事介助
- ・思っていた事を理論的に考えることが出来そうで嬉しくてもっと勉強したいと思います
- ・実技時間が短くポイントでは理解できたがテキストで復習し今後につなげていきたい
- ・エビデンス的な事、どうしてそうするのかなどよくわかりました。
- ・小山先生にたくさん質問できました
- ・前回の講習会でも忘れていたことが多くあったので再確認できた
- ・根拠と技術を一緒に学べた
- ・車椅子のシーティングでのタオルの使い方が学びました
- ・基本的なことでも実際に臨床現場でできていないことが多かったので改めて意識していこうと思うことが多くありました
- ・臨床で疑問に思っていた部分を小山先生から直接指導していただけて早速実践していきます
- ・嚥下困難は老化であるのになぜ皆すぐに胃瘻や経静脈栄養を安易にするのかとても疑問でした。小山先生の力強いご意思を伺い自分の思いは間違っていなかったと思うことができこのように多くに方たちが同じ思いなのだと思えることができたため
- ・自分がやっていたことの振り返りや修正すべき点がわかりました
- ・食べる事の幸せの大切さ、そのお手伝いをできる方法を学ぶことができたため



- ・臨床で経験を積まないと実技は難しいと思う
- ・実技は前回学んだことが活かしきれていない所があった
- ・予習が足りなかったので講習の中を深められなかった。希望して参加を決めたころより余裕がなくなった
- ・自分の技術や能力を復習しようと思いましたが勉強不足でした

#### 4. 今後の実践場面で活用できると思いますか？



1)かなりそう思う 2)まあまあそう思う 3)ふつう 4)思わない

どんな場面で活用できるか具体的ご記入ください。

活用できない場合の理由もお願いします。

- ・重心さんが主なため変形が著しく、ポジショニングが難しかったり、視覚的に見てもらうことが難しいができることを考えてできることから始めていきたい
- ・舌が委縮して奥に引っ込んでしまった人の食事介助方法
- ・口に貯めこんでしまう人の食事介助方法
- ・絶食からの脱出の際スクリーニングテスト、結果を持ってDrへ情報共有できる
- ・施設訪問し食事介助する際にポジショニング方法やそのようにして意欲を引き出すかなぜ拒否があるのかをアセスメントし、実践することの大切さを学んだ
- ・認知症で食べない人がいるので試してみたい
- ・半側空間無視の患者さんの介助を間違った方法でしていたので病棟スタッフに伝えたいです

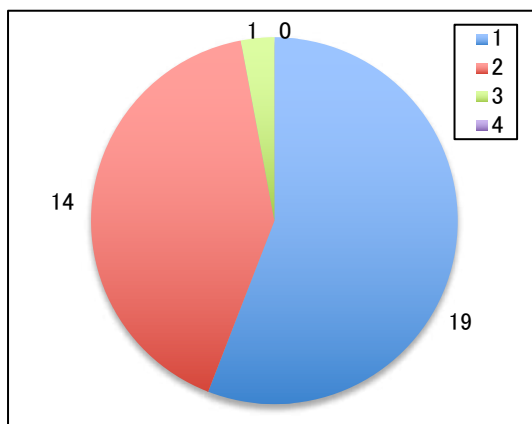
- ・ベッド上や車椅子でのポジショニング方法
- ・教育・実践どちらにおいても大切な学びであると思いました
- ・先学期に問題がある方でも声掛けや食べ物の見せ方で反応が変わるという事を知れたので、今後に活かしていきたいです
- ・段階的なアプローチの際に活用できると思いました。しかし、スタッフの統一をどう図るか課題もできました
- ・訪問先での家族へ伝えたい。もっと疾患とご本人の評価・観察をした上での実施を考える
- ・ポジショニングから視覚的に提示するということで活用できると思います
- ・高齢者、パーキンソンの方、認知が良くない方、口を開けない方へのシーティングと介助
- ・施設入所者へのアドバイスが少しできるかなと思います
- ・今後実習が始まるので活かしたいです
- ・在宅・施設での診療
- ・看護学生・将来的には訪問看護師の相談などを行いたい
- ・今まで曖昧な部分もあったので今回のセミナーを受講して職員全体に活用方法を伝えることができる
- ・経管栄養の方、スクリーニング、食事開始の判断を医師と前向きに進めていけそうなきがします
- ・まだまだ知識も手技もしっかり現場にうまく活用できるまでいっていないと思いました
- ・練習あるのみ
- ・事務をしておりますので実践場面がありませんが、何らかの形で関われたらと思います。

#### 5. 今回、宮崎市での開催でした。どうして、今回のKTSM実技セミナーを受講されましたか？

- ・宮崎市在住だから
- ・九州だったので
- ・家から近かったのと、前回も同じ場所で物品がそろっていて過ごしやすかった
- ・今実習中でちょうど宮崎に帰ってきているので参加させていただきました
- ・熊本からだったので交通の利便性
- ・栄養剤に頼り切った現状に不安を感じていた所に近県でのセミナーがあることを知ったから
- ・経管栄養の方を目の前にした時に口から食べる幸せを守るサポートする力にまだまだ自身が足りなく自身をつけたいと感じたから
- ・現在食事委員会のスタッフとして活動しているため食事介助方法、ポジショニングなどの知識を身につけ技術向上を図るため
- ・自身のスキルアップ、自分の知識・手技のスキルアップしたいため
- ・清山先生に勧められて
- ・知識の復習と手技の練習・確認
- ・技術的に未熟なところがたくさんあるから

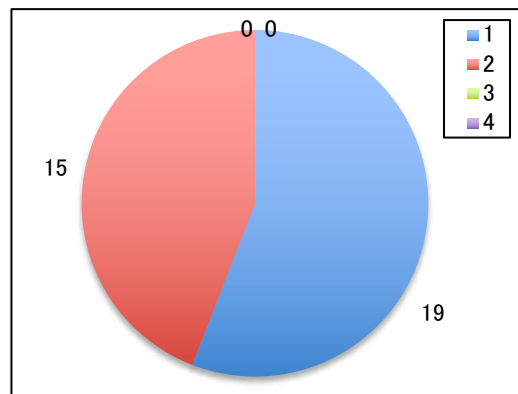
- ・患者さんのニーズに対応できる技術を学びたく受講しました
- ・摂食嚥下障害の患者様でどうアプローチしていけばよいか悩むことが多かったので、臨床に繋がりたいと思い参加しました
- ・前回の講習が印象深かったので是非にと思い受講しました
- ・前回の受講でとても魅力を感じ実際に働く中で新たな疑問がでたためもう1度受講しました
- ・前回小山先生の講演を聞いて興味を持ち知識をつけたいと思い受講しました
- ・今後臨床で摂食嚥下のリハを行う上で知識が不十分だと考えたため
- ・食べるということはとても大切なことだと考えていたが今実践していることが正しいのか分からなかったため、基礎を学びたかったため
- ・嚥下のことについて学びたかった
- ・臨床にでて3ヶ月ですが自分の1番の悩みが摂食の介入であったから
- ・STになる上で嚥下訓練や食事介助が必須になるから
- ・実際のセミナーを受けて実技があることがよい
- ・以前、清山先生の講義を聞き私たちにできることがあるのではないか自信を持って対象者と接したいと思い受講しました
- ・今まで3回セミナーに参加しています。実践場面が少ないので復習や知識を増やすため参加しました
- ・友人から誘いを受けました。また、2016年のNHKのプロフェッショナルで小山先生が出演されていたのを拝見しました。まだSTの勉強を始めて2年ほどの私にとってとても感銘をうけた番組でした
- ・他のSTが参加しており勧められました
- ・同じ職場の看護師さんに教えていただいたの
- ・現場で活かせるという点
- ・今年の職場のテーマが自己研鑽だったので頑張りました

6. 今後、宮崎でKTSMの実技セミナーを開催予定されれば、参加したいと思われますか？



1) かなりそう思う 2) まあまあそう思う 3) ふつう 4) 思わない

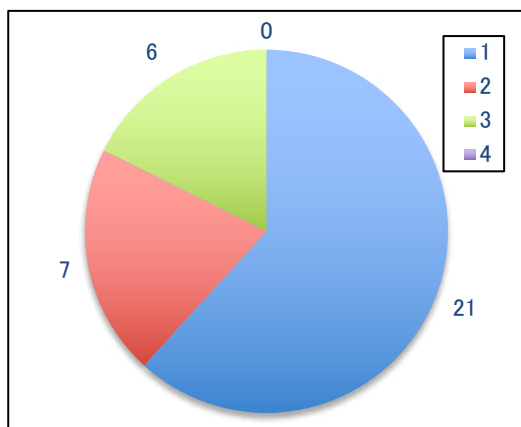
7. 今回は基礎コースでしたが、今後、困難症例対応などのアドバンスコース等が宮崎で開催予定されれば、参加したいと思われますか？



1) 是非参加したい 2) 参加を検討したい 3) 参加しない 4) 必要ない

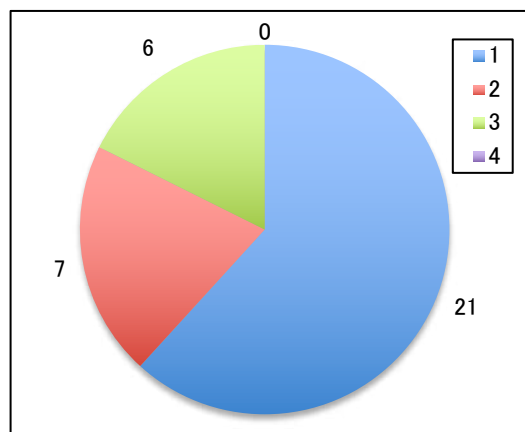
8. 今回、『認定食事サポーター』として認定されました。

① 今後、研修や臨床の現場で、認定食事サポーターとして活動したいと思いますか？



1) 是非活動したい 2) 活動してもいいかなと思う 3) 自信がない 4) 活動しない

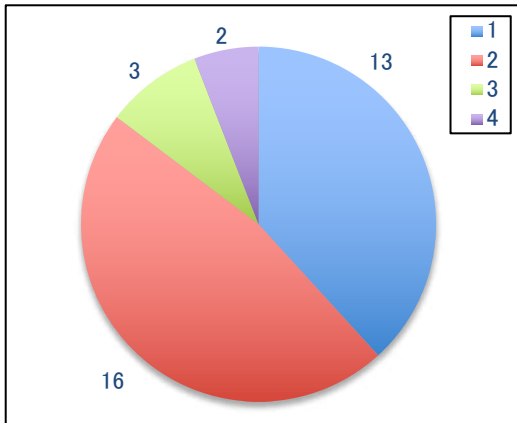
② 今後、「認定食事サポーター」としての協力要請があった場合、どうしますか？



1) 是非活動したい 2) 活動してもいいかなと思う 3) 自信がない 4) 活動しない

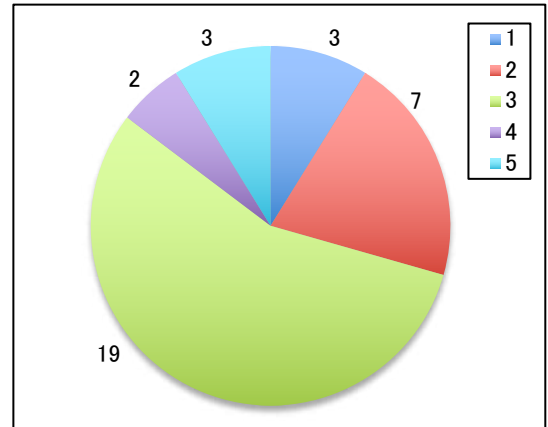


9. 今後、KTSM 実技認定を取得したいと思いますか？



1) 是非, 認定を取りたい 2) 取りたいとも思うが迷っている  
3) 取る予定はない 4) 未記入

10. このようなセミナーや研修会を企画して、開催したいと思いますか？



1) 是非活動したい 2) 活動してもいいかなと思う 3) 自信がない  
4) 活動しない

今回のセミナーは、市民講座との並行実施であったため、演習の時間が短くなった印象である。グループによっては、これまで複数回受講のリピーターも多く、小山先生が受講者のレディネスにも対応いただき、困難場面を設定し、指導して下さいました。全体として、困難場面の演習を行う、アドバンスコースの実施も望まれていることを痛感した。今回は2名の学生さん、学生ボランティアとしてお手伝い下さった2名の高校生の参加もあり、今後の開催内容を検討して、次回の臨みたいと思います。

★最後に

受講者の皆さんと！

小山先生、アドバイザー、サポーターの皆さん、学生ボランティアの皆さん



受講者の皆さん、大変お疲れ様でした。

小山先生、アドバイザーの先生方、ご指導どうもありがとうございました。

これに満足することなく、前進していく内容を宮崎でやれるよう、企画・開催していきます！！

是非またお会いしましょう♪

第87回KTSM実技セミナーにご参加いただき、ありがとうございました